

## 《あらすじ》

### 二、『天守物語』 一幕

播磨国姫路にある白鷺城。この城の天守閣の最上階は、人間たちが近づくことのない、美しい異形の者たちが暮らす別世界。この世界の主こそ、美しく気高い富姫です。そこへ富姫を姉と慕う亀姫が訪れ、久しぶりの再会を喜ぶ富姫は、亀姫に土産として白鷺城の城主である武田播磨守自慢の白い鷹を与えます。

その夜、天守閣に播磨守に仕える姫川図書之助が鷹を探しに現れました。富姫は、凜とした図書之助の応対に、命を奪うべきところを無事に帰しますが、図書之助は天守を降りる途中で燈を消してしまい、火を求めて最上階へと戻ってきます。図書之助に恋心を抱き始めていた富姫は、自分に会った証として、城主秘蔵の兜を渡しますが、再び天守を降りた図書之助は家宝の兜を盗んだ疑いをかけられてしまい…。

泉鏡花の戯曲の中でも屈指の名作とされ、姫路城（白鷺城）の天守に隠れ住むといわれた姫の伝説を題材に、鏡花ならではの幻想的な世界を織り込んだ作品を坂東玉三郎演出によりご覧いただけます。